作られた「物語」を超えて (4)

山極 寿一

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

区分	段落	内容
序論	1	私たちは野生動物の行動を誤解することがよくある。それは動物の行動を人間に都合よく解釈してきたからである。このような人間が作った「物語」は、動物たちに大きな悲劇をもたらすことがある。
本論（ゴリラの事例）	2・3	**ゴリラへの誤解** ゴリラのドラミングは戦いの宣言と解釈され、ゴリラは、凶暴で好戦的な動物と見なされていた。
	4～6	**ドラミングの本当の意味** ドラミングは、自己主張、呼びかけ、不満や誘いかけなど、いろいろな意味をもつ。
	7	**ゴリラの悲劇** 好戦的で凶暴な動物だと見なされたために多くのゴリラがハンターの標的となった。また、動物園でも頑丈な檻の中で鎖につながれることが多かった。
本論（人間全体への一般化）	8	**人間の性質** 人間は、ある印象を基に「物語」を作り、それを仲間に伝えたがる性質をもっている。 ・言葉の利点……知識を共有でき、知識を蓄積して新しい技術や工夫をもたらす。 ・言葉の問題点……自分の体験を脚色したり、誇張したりする力がある。
	9	**「物語」が人間社会にもたらす悲劇** 誤解が「物語」として独り歩きし、争いや衝突となる。
	10	**誤解を解くために** 相手の立場に立って、一つ一つの行動の意味を考える、「物語」と実際の現象とを照らし合わせ、これまでの常識を疑ってみる、「物語」の陰にしいたげられている生き物や人間がいないか思いを巡らす。
結論	11・12	「物語」の真実を知るためには、その人々が暮らしている文化や社会をよく理解することが必要である。さまざまな文化や社会で暮らす人々が国境を越えて行き交う現代だからこそ、独りよがりな解釈を避け、常識を疑い、自分を相手の立場に置き換えて考えてみる視点が重要である。

（1～12は教科書本文における形式段落番号を表します）

具体化・抽象化

本文では、内容を**具体化**したり**抽象化**したりしながら主張を導いている。具体的な事例が何に対する例になっているかに注意して論理の展開を捉えるとよい。

確認テスト 教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文中のゴリラの事例の役割として適当なものを、二つ選びなさい。

ア 人間が作った「物語」が動物たちにもたらした悲劇の具体的な例となっている。
イ ゴリラと人間の体の仕組みや能力の違い（ちが）を、具体的な事例を通して検証している。
ウ 事例を通して、「物語」を作り伝えたがるという人間の性質を導き出している。
エ 「物語」を作り伝える能力が動物一般に共通するものであることを証明している。

［　　・　　］

(2) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア ゴリラのドラミングは戦いの合図であり、ゴリラの群れどうしが出会ったときやけんかが起こったときによくみられる。
イ ゴリラのドラミングは、二足で立ち上がり、てのひらで交互（こうご）に胸をたたく行動で、この行動の後はたいてい戦いになる。
ウ ゴリラのドラミングは、自分の気持ちを表したり、相手に誘いかけたりするための行動で、いろいろな意味をもつ。

［　　］

(3) 筆者の主張として適当なものを選びなさい。

ア 人間は言葉をもち、話を作り伝えることで発展してきたので、「物語」を生み出すという言葉の力を大切にすべきである。
イ 自分を相手の立場に置き換えてみる視点をもち、作られた「物語」の向こうにある真実を知ろうとすることが大切である。
ウ 「物語」は動物たちに大きな悲劇をもたらしたが、人間の社会においては新しい世界と出会うための鍵（かぎ）となるものでもある。

［　　］